

南城市歌 作詞 知念 仁照
作曲 普久原 恒勇

太平洋の 彼方から
昇る朝日を 仰ぎつつ
ニライカナイの 神の地に
島建て神が 降り立ちぬ
世界に誇る 美ら島の
ああ秀麗の 南城市

歴史文化を 偲ぶには
四郷の面影 今ここに
城と湧水の 豊かさも
黄金波打つ 美ら海の
心を結ぶ 人の脈
ああ繁栄の 南城市

登る坂道 希望持ち
共に築かん 理想の郷
明日の栄光 自治の礎
久遠の平和 光る街
輝く未来 美ら宿道を
ああ躍進の 南城市

南城音頭 作詞 東恩納 盛雄
作曲 普久原 恒勇

東四間切 朝日がのぼり
広がる海に 夢が咲く
みどり 太陽 花咲くまちは
心と心 つなぐまち
ここは南城 海の郷

*ユイヤナー ハイヤナー
しんかうち揃てい
歌い踊らな 南城音頭

城ロードに 歴史をたずね
住みよいまちに 笑顔咲く
昔なつかし 石畳道
今と昔を つなぐ道
ここは南城 風の郷

*囃子

湧き出る水に 希望もあふれ
恵みの大地 情咲く
心ゆたかに 息吹もつよく
夢を植えよう このまちに
ここは南城 水の郷

*囃子

のびゆく街に 緑も映えて
平和なまちに 愛も咲く
大きな夢は 未来へつづく
幸せ招く 神話の地
ここは南城 神の郷

*囃子



南城市

20年のあゆみ
2006 - 2025



はじまりを想う

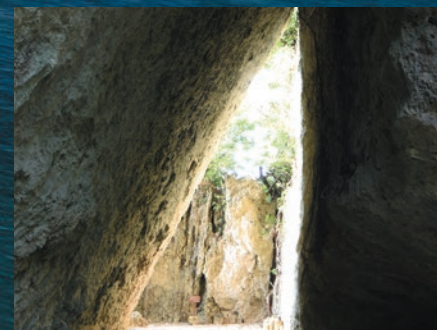
この島のはじまりは、どのようなものだったのでしょうか。

琉球創世の神話、グスクの時代、三山を統一した王の記憶。
戦後の混乱から立ち上がり、日々の暮らしを築いてきた人々の歩み。
南城市の風景には、遠い時代から今日まで、
数えきれない人々の営みが重なっています。

長い歴史のものさしで見れば、20年という時間は、
ほんのわずかな一瞬かもしれません。
それでも、この20年を振り返ることは、いま私たちが暮らすまちが、
どのように形づくられてきたのかを見つめることです。
道が整い、学校が建ち、地域の行事が受け継がれ、
新しい出会いが生まれてきた。その一つひとつの背景には、
まちを思い、支え、動かしてきた人々がいます。

歴史を思い返すことは、過去をただ懐かしむことではありません。
いまの暮らしにつながる糸をたどり、
そこに関わった人々の思いを想像すること。
そして、その糸を未来へと紡いでいくことです。

南城市が誕生して20年。
この冊子が、私たちのまちの歩みを見つめ直し、
次の時代へ思いをつなぐ一冊となりますように。



目次

- 04 合併の経緯
- 06 南城市の誕生
- 08 年表
- 14 こころ、つなぐ。
- 16 分野別あゆみ
- 24 未来へ - 先導的都市拠点
- 26 未来へ - 未来対談
- 28 資料編



未来へつなぐ、南城市の20年

南城市誕生20周年を迎えるにあたり、市民の皆さまをはじめ、これまで本市の発展にご尽力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

平成18年1月1日、佐敷町・知念村・玉城村・大里村の1町3村が合併し、南城市は誕生しました。それぞれの地域が育んできた自然、歴史、文化、人々の営みを受け継ぎながら南城市は一つのまちとして歩みを重ねてまいりました。

この20年の間、本市では新庁舎の整備、道路や学校の整備、子育て支援、福祉、観光、産業、防災、公共交通など、さまざまな分野でまちづくりを進めてきました。

また、地域活動や伝統行事、文化芸能、スポーツ、教育、福祉の現場など、市民の皆さま一人ひとりの力が南城市の暮らしと魅力を支えてきました。

一方で、人口構造の変化、地域コミュニティの維持、自然災害への備え、新型コロナウイルス感染症への対応など、多くの課題にも向き合ってきました。そのたびに、市民、地域、事業者、行政が力を合わせ前へ進んできたことは南城市にとって大きな財産です。

20年という節目は、これまでの歩みを振り返るとともに、未来へ向けて新たな一步を踏み出す機会でもあります。先人たちが守り育ててきた歴史、文化、自然を大切にしながら、子どもたちが希望を持ち、誰もが安心して暮らし続けられる南城市を次の世代へつないでまいります。

この『南城市 20年のあゆみ』では、20年を祝うとともに今に感謝できる特別な日として、私たちの暮らしが多くの人々の努力と支えによって築かれてきたことを見つめ直し、次の時代へ思いをつなぐきっかけとなれば幸いです。

これからも市民の皆さまとともに、未来への責任を胸に、「海と緑と光あふれる南城市」のさらなる発展に向けて取り組んでまいります。

結びに、南城市の発展を支えてこられたすべての皆さまに深く敬意と感謝を申し上げますとともに、市民の皆さまのご健勝、ご多幸を祈念し、あいさついたします。

令和8年8月
南城市長 大城憲幸